保健体育科教育の理解のために
JICAボランティア出発式

▲ブータンに派遣される桑原さん（左）

6月19日、JICAボランティアとして7月から2年間ブータン王国に派遣される桑原寛生さん（田中東町出身）が市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に出発を報告しました。

桑原さんは保健体育科の教諭として、現地の小学生に保健体育の授業を実施するとともに、現地住民や教育関係者に保健体育科教育の理解促進活動を行います。

中村市長が「しっかり子どもたちに教えてきてください」と激励すると、桑原さんは「教員として成長し、現地での経験を日本の子どもたちにも伝えたい」と意気込みを述べました。

市の文化復興支援のために
やつしろがめさんWAON寄附金贈呈式

▲ハッピーワオンも同席して贈呈式が行われました

6月18日、市役所鏡支所でやつしろがめさんWAON寄附金贈呈式が行われ、イオン九州とマックスバリュ九州から平成29年分の166万7027円が市に贈られました。

これは本市と両社との地域振興に関する協定に基づく取り組みで、電子マネー「やつしろがめさんWAON」カードを利用して支払われた金額の0・1%を寄附しているものです。今年で7回目となり、累計1381万7491円になります。

寄附金はやつしろ文化振興基金へ積み立てし、指定文化財の修復などに使われます。

八代の魅力をPR
本町商店街に約4,000人の観光客

▲商店街は買い物客でにぎわいました

6月16日、中国からのクルーズ船乗客約4000人が本町商店街を訪れました。

歓迎式典で中村博生市長は「今日は和服でおもてなしをするので和服を見て、八代の風情を感じていただければと思います」と歓迎。この日は本町マルシェも同時開催され、観光客は和服姿の人と写真を撮ったり、買い物を楽しんだりと八代を満喫しました。

今回社員旅行の行程で八代を訪れた中国企業の鐘建和CEOは「八代は水がとてもおいしい。みなさんが心温かく接してくれたことを持ち帰りたいです」と話しました。

自分の夢に向かって
文政っ子いきいきキャリアセミナー

▲しっかりメモを取ります

6月22日、文政小学校で「文政っ子いきいきキャリアセミナー」が行われ、5・6年生約100人が参加しました。

これは、身の回りのさまざまな職種に従事する人の話を聞くことで、夢や希望を持って自己実現を図ろうとする意欲を喚起することを目的としています。

講師から「自信をもっていろんなことにチャレンジしてほしい」などのメッセージが伝えられると、児童を代表して榎田桃子さんが「今の夢に向かって頑張ろうと思います。今日はありがとうございました」とお礼を述べました。

音楽を楽しんでほしい
植柳小学校へグランドピアノの贈呈

▲グランドピアノの伴奏にあわせて歌う児童

6月21日、植柳小学校でグランドピアノの贈呈がありました。

これは、同校合唱部の指導などを行っている閘（ひのうち）優子さんが自宅にあるグランドピアノを活用してほしいと寄贈したものです。

閘さんは「家族の母校でもある植柳小学校の児童たちに大事に使ってもらいたいです」と思いを語りました。

今年度合唱部として活動する森山桂伍さん（6年）は「寄贈してもらったピアノで歌の練習をするのが楽しみです」とうれしそうに話しました。

生命を守るために
八代市球磨川水害タイムライン完成

▲完成を祝う関係者

6月19日、八代グランドホテルで八代市球磨川水害タイムライン検討会の松尾一郎座長（東京大学大学院情報学環客員教授）から中村博生市長へ「八代市球磨川水害タイムライン（平成30年度洪水試行版）」が手渡されました。

このタイムラインは、球磨川の水害発生を想定し、大雨・洪水が発生する前の「事前備え」から避難が完了したあとの応急復旧などの「応急対応」までを7段階に分類し、20の関係機関の対応を時系列で定めたものです。

完成式で中村市長は「災害に強い地域づくりを目指していきたい」と話しました。

九州管区行政評価局長表彰および熊本行政評価事務所長感謝状贈呈

▲森上幸久さん（左）と田上高広さん（右）

平成30年度行政相談委員全体会議において、行政相談委員の森上幸久さん（坂本校区担当）が、「九州管区行政評価局長表彰」を受け、田上高広さん（泉校区担当）に「熊本行政評価事務所長感謝状」が贈呈されました。

森上さんは、業績が顕著で他の模範となることが認められたもので、田上さんは、委員業務の遂行に特に尽力したことが評価されました。

森上さんと田上さんは「これからも地域住民の身近な相談窓口として、住民の皆さんのさまざまな相談の解決に向けて寄り添い尽力したい」と話しました。

中心市街地のにぎわいを創出
くまナンステーショングランドオープン

▲多くのお客さんでにぎわうくまナンステーション

7月1日、本町アーケードでくまナンステーション&くまモンストリートファニチャーグランドオープン記念式典が開催されました。

これは海外旅行者などを本町アーケード商店街に誘導し、にぎわいを創出することを目的としたものです。

式典では、DMOやつしろの神園喜八郎代表理事が「笑顔で観光客を迎える取り組みを進め、活性化につなげたい」とあいさつしました。

くまモンストリートファニチャーは、八代城跡公園から本町アーケードの沿道に12体設置されています。

八代を担うアスリートを応援
八代市強化指定選手指定証交付式

▲強化指定選手の選ばれた皆さん

6月29日、八代グランドホテルで八代市トップアスリート育成事業として、八代市強化指定選手指定証交付式が行われ、強化指定選手に選ばれた7競技22人が指定証を受け取りました。

これはオリンピック・パラリンピックなどの国際大会で活躍できる競技者の輩出を目指し、指定選手への側面的な支援や選手の大会・強化合宿などに係る支援を実施するものです。

交付式では、選手を代表して熊本商業高等学校3年の村上静和さん（陸上）が「技術の向上はもちろん、他の選手の模範となるように努力する」と決意を述べました。

100歳 おめでとうございます

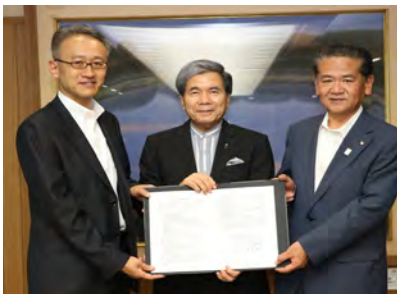
江浦　ヨシエさん
（奈良木町）
大正7年7月7日生

日奈久中西町で生まれ、若い頃は金物屋や薬局で働いていたヨシエさん。いつも朗らかで周りの人ともすぐに仲良くなれるヨシエさんは、歌ったり、踊ったりするのが大好きで、元気の源は笑うことだそうです。

100歳を迎えて「あと20年は長生きしたい」と話しました。

好き嫌いなく何でも食べるヨシエさんの長寿の秘訣は「みんなと楽しく、仲良く過ごすこと」。

市民に愛される企業を目指して
日本マイクロバイオファーマ立地協定



▲左から梅田代表取締役社長、蒲島県知事、中村市長

医療・化学品製造業の日本マイクロバイオファーマが約55億円の大規模な設備投資を行うにあたり、7月6日に県庁で蒲島郁夫県知事立ち会いのもと本市と立地協定を締結しました。

同社八代工場では主に抗がん剤原薬、食品添加物、農薬、飼料などを製造・開発し、世界中に供給しています。

中村博生市長が「フードバレーやつしろ基本戦略構想などの推進に大いに期待ができ、しっかりと支援していきたい」と話すと、梅田明人代表取締役社長は「市民に愛され育っていく企業を目指したい」と述べました。

自分で作ったうちわの風は最高
宮地和紙オリジナルうちわ作り体験

▲最後の仕上げでうちわに柿渋を塗ります

7月8日、宮地コミュニティセンターで宮地和紙オリジナルうちわ作り体験が行われ、約40人が思い思いのうちわを作成しました。

山鹿市来民の渋うちわ職人である下河広介さんと堤大介さんの指導の下、参加者は竹で作られたうちわの骨組みに宮地和紙を貼り、最後に柿渋を塗ってうちわを完成させました。

友達と参加した田代莉子さん（八千把小3年）は「最後にうちわの形を整えるために、はさみを入れるところを頑張りました。自分のイメージどおりの作品ができてよかったです」とうれしそうに話しました。